



# 世界の医療団 2012

世界の医療団



# “誰もが治療を受けられる未来を。”



世界の医療団



世界では、日々2万1千人の子どもが5歳になる前に命を落としています。

(2010年年間760万人：2011年9月UNICEF発表より[http://www.unicef.or.jp/osirase/back2011/1109\\_01.htm](http://www.unicef.or.jp/osirase/back2011/1109_01.htm))

現在も世界各地で頻発している紛争が、多くの子どもたちから命や健康を奪い、そのような直接的な被害に遭わなくても、紛争地帯では子どもたちは、往々にして非常に弱い立場に置かれてしまいます。

(UNISFより抜粋 [http://www.unicef.or.jp/library/pres\\_bn2007/pres\\_07\\_98.html](http://www.unicef.or.jp/library/pres_bn2007/pres_07_98.html) )

また、世界のHIV陽性者は3400万人を超え、エイズによる死者数は年間およそ200万人を記録しています。

(2010年WHO統計より[http://www.who.int/hiv/pub/progress\\_report2011/en/index.html](http://www.who.int/hiv/pub/progress_report2011/en/index.html))

このようなあらゆる病と闘うために世界の医療団は立ち上がりました。

1980年パリを発祥とし現在世界14ヶ国に事務局を置き、世界各地に医療・保健衛生分野の専門スタッフ中心に派遣し、人道医療支援に取り組む国際NGOです。国籍、人種、民族、思想、宗教などのあらゆる壁を越えて、世界で最も弱い立場にある人々に支援の手をさしのべることが、私たちの理念です。

[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)

世界の医療団(特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャパン)

〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F TEL:03-3585-6436 FAX:03-3560-8073



# 第一の使命「医療支援」



世界の医療団

世界各国に医師・看護師を中心としたボランティアを派遣し、自然災害や武力紛争、疾病、外傷などに苦しみながらも治療を受けられない環境にいる人々の医療支援にあたります。私たちの言う「医療支援」とは、治療行為や医薬品・医療物資の調達だけではありません。現地の医療システム・社会機構の構築や復旧を支援し、住民が差別なく基礎的医療へアクセスできるようにすること、現地スタッフの育成も含んでいます。



[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)

世界の医療団(特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャパン)  
〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F TEL:03-3585-6436 FAX:03-3560-8073

## 第二の使命 「証言」



世界の医療団

最も弱い立場の人々に医療支援を実施する上で障壁となるもの、人権や人間の尊厳を侵害するものを、医療を通じて「証言」し、多くの人に現状を伝えること。また、状況を改善すべく、政策決定に携わる人々へ訴えかける「政策提言(アドボカシー)活動」も私たちの使命の一つであり、一部地域で医療無料化制度を達成するなどの成果をあげています。



[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)

世界の医療団(特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャパン)  
〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F TEL:03-3585-6436 FAX:03-3560-8073

# 世界の医療団の活動方針



世界の医療団

## ▶地域社会の“自立”に重点を置いた活動を展開

援助対象は、自然災害、武力紛争、政治的抑圧などの犠牲者、疾病(風土病、伝染病、HIV/エイズ)に苦しむ人々、難民、少数民族、ストリートチルドレン、医療から除外されたすべての人々です。私たちの医療チームは、援助を必要としている世界の国や地域で、それぞれの保健医療環境や住民のニーズにあわせて、様々な支援活動を展開しています。

## ▶地域社会の自立を促す、“長期開発プログラム”

長期開発プログラムは、国や地域社会による自立的な医療サービスを実現することが目的です。実施国の保健衛生当局や病院、現地NGOと協力して、地域住民を対象とした予防および保健に関する啓蒙プログラムを実施するとともに、病院の復旧、医療スタッフの育成を行います

## ▶自然災害・紛争等への緊急対策、 “緊急プログラム”とその後の“復旧プログラム”

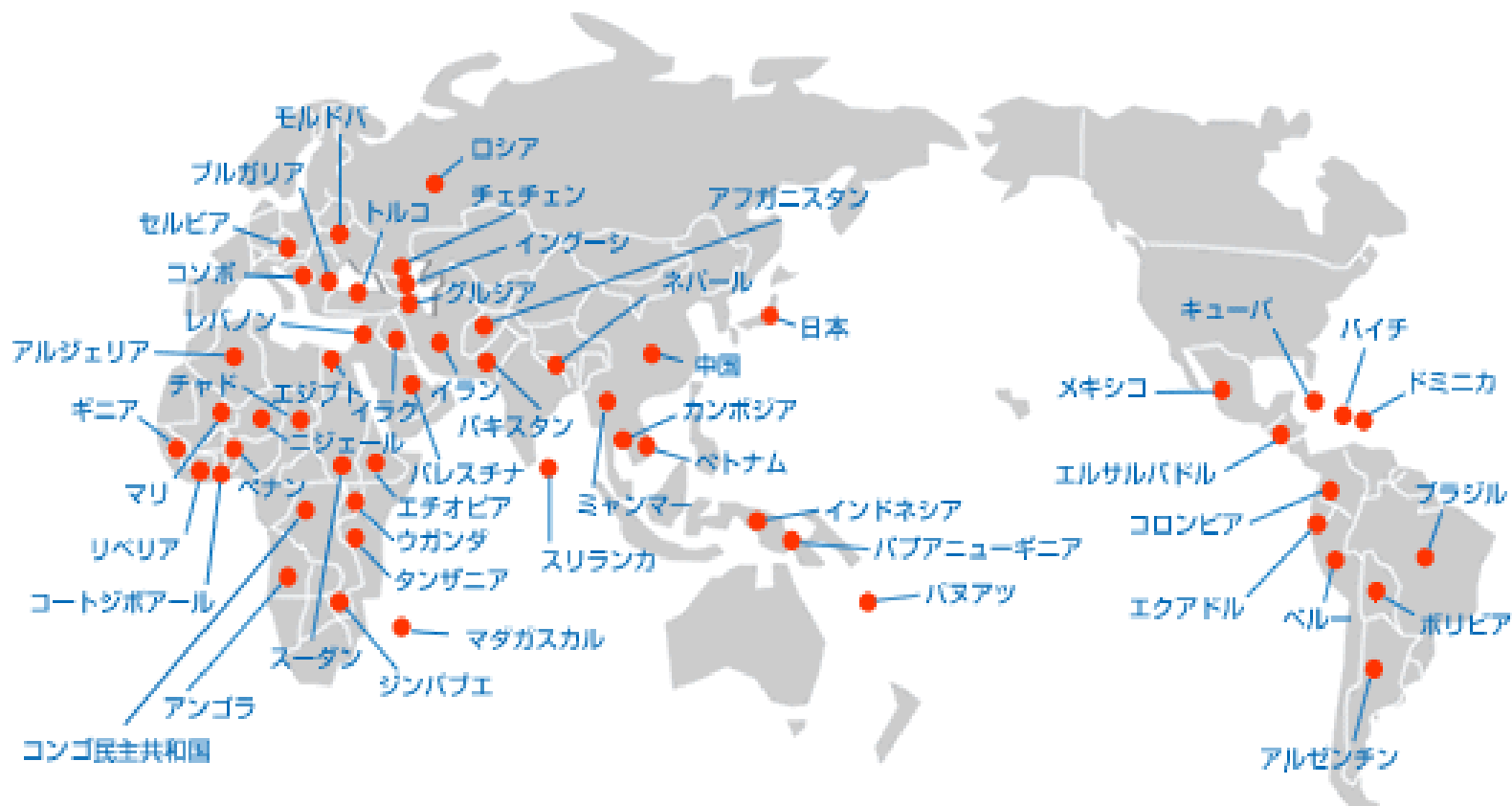
地震・洪水・火山噴火などの自然災害、紛争の勃発により予期せぬ危機に襲われた人々を一人でも多く救うため、世界のどこへでも緊急支援チームを派遣し、治療や救援物資の調達を行います。緊急事態の沈静化を受けて開始される“復旧プログラムは”、6ヵ月から3年の計画で実施されます。被災者や犠牲者の身体と精神の回復、彼らに必要最低限の保健サービスを保証するべく、破壊された社会、保健衛生機構(施設・物資・人材)の復旧援助を目的としています。

# 世界の医療団が展開する主な活動



世界の医療団

国籍、民族、宗教、思想、人種などあらゆる壁を乗り越えて、世界中の最も弱い立場にある人々に手をさしのべる目的で活動を続けています。



世界の医療団 活動地域

# 世界の医療団の活動



世界の医療団

## ▶スマイル作戦

先天的、あるいは病気・災害などにより顔面や手足などに損傷や奇形が生じた人々に、形成外科手術を行うことにより笑顔を取り戻す医療支援プロジェクトです。日本からも医療チームを派遣し、毎年100名以上に対し手術を実施しています。2012年はカンボジア、バングラデシュ、マダガスカルで継続的なプロジェクトを、アジアで調査プロジェクトを行う予定です。

## ▶HIV/エイズ予防・対策

HIV/エイズ患者に治療・医療支援を行うプロジェクトの実施と共に、感染の結果、社会から疎外され差別や偏見に苦しむ人々の精神的なケア及びHIV/エイズの予防にも力を注ぎます。現在、ジンバブエ・コンゴ・ミャンマーなどの国でプロジェクトを実施しています。

## ▶プライマリヘルスケア

現地保健機関との協力の下、各地の実情やニーズに合わせて、医療施設の再建や現地スタッフの育成などを行う長期的・継続的なプロジェクトです。活動地のひとつであるコンゴ民主共和国のタンガニカ地域では、地域医療の機能を向上させることを目標とし保健医療センターへの支援をはじめとして地域医療の質の向上と医療サービスへのアクセスを向上する活動を展開しています。特定の感染症に対する支援も力を入れており、麻疹の予防接種キャンペーンにおいては、当地域で30万人を超える児童にワクチンの提供を行いました。インドネシアではプライマリーケア サービス(初期医療)を行う常設または、移動クリニックを新たに設置しました。



# 世界の医療団の活動



世界の医療団

## ▶母子保健

保健衛生環境を改善し、出産にともなう母子の死亡率を低下させるため、また妊産婦・5歳未満の子どもへの基礎的な保健医療を確立するため、近代医療の技術や設備が届かない地域を中心に継続的にプロジェクトを展開しています。ラオスでは、国の最南端にあるチャンパサック郡で、助産師や村のヘルスワーカーの能力強化や住民たちへの教育・啓もう活動などを通じ、域内での妊産婦死亡率、新生児死亡率などの低下に貢献しています。

## ▶メンタルヘルスケア

医療支援は、身体的外傷に対する医療活動ではありません。長期的視野で、人々の精神的ダメージを緩和し、自立を支援するプロジェクトも実施しています。突発的な災害時にも、緊急支援と共に精神的なケアを行います。東日本大震災の被災地では2011年4月より精神医療に特化した「こころのケア」プロジェクトを継続して行っています。



# 世界の医療団の活動



世界の医療団

## ▶ 緊急支援

突発的な人的・自然災害で、絶望的な状況に置かれている人々へ迅速に対応するプロジェクト。発生後、48時間以内に緊急医療支援チームを派遣します。最低限度の環境基盤を構築した後、プロジェクトは、修復外科手術、基礎治療、精神衛生ケアなどのセカンダリー・ケアへと切り替わり、犠牲者のフォローを行います。

「アフリカの角」と呼ばれるソマリア・エチピアを中心とした地域では、大規模な干ばつ、それに引き続いて未曾有の食糧危機が発生し、数百万の人が命の危険にさらされています。世界の医療団は2012年も継続的に緊急支援を行っています。

## ▶ 人権擁護

医療行為の展開と同時に、不法逮捕や囚人への虐待・拷問、難民や少数民族に対する移住の強制問題から家庭内暴力・女性への暴力といった非人道的行為の実態を証言し、更に政策提言へとつなげていく活動です。トルコでは、政府による抑制と闘う人権運動家の医療的・精神的・社会的支援のプログラムを行っています。具体的には人権活動家のための訴訟手続きを行い、健康状態が投獄に耐えられると判断された患者についての、第2の意見として欧州人権裁判所に申請しました。このことによって、上記の判断を下した賄賂などで墮落した当局の医者に対して一連の制裁措置をもたらしました。また、難民キャンプにおける医療活動に伴いクルド人の権利(特に健康の権利)が尊重・保障されるよう尽力しています。

[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)

# 世界の医療団の組織とネットワーク【2011年】



世界の医療団

## 組織

国際ネットワークにおける年間予算： 約113,000,000€（約127億円：1EUR=112.62円）

スタッフ：全事務局常勤有償スタッフ 381人

全事務局ボランティア 4,246人

海外派遣有給スタッフ 194人

現地有給スタッフ 2,445人

現地ボランティア 141人

## 事務局所在国

フランス、スペイン、ギリシャ、スイス、アルゼンチン、ベルギー、カナダ、

ポルトガル、オランダ、ドイツ、イギリス、日本、スウェーデン

## 医療支援ミッション

76カ国 342プロジェクト(2011年)

## ネットワーク

世界の医療団の国際ネットワークは、現在14の事務局からなっています。各事務局は独立して機能していますが、同じ使命のもとに連結しています。

# 世界の医療団の歴史



世界の医療団

1980年	フランス人医師ベルナール・クシュネル（元仏外相）を始め、医師グループ15名が、インドネシア洋上のボートピープルの救助活動を行ったことが発端となり、帰国後フランスで「世界の医療団」を設立
1981年	最初の医療チームをベトナムに派遣
1989年	形成外科手術プログラム「スマイル作戦」を開始
1995年1月	阪神淡路大震災に際して、医療チームを派遣
1995年3月	世界の医療団 日本を設立
2000年	特定非営利活動（NPO）法人の設立認証を獲得
2004/2005年	スマトラ沖大地震への被災支援、インドネシア、スリランカでの救援活動を実施
2007年12月	認定特定非営利活動法人として認定を獲得
2008年	洞爺湖サミットでの政策提言により、日本やフランスを始めとする先進国が、子どもの基礎保健医療の無料化を推進するアフリカ諸国を積極的に援助していくことが確認される
2009年	バングラデシュでの初「スマイル作戦」を実施

# 世界の医療団の歴史



世界の医療団

2010年4月	初となる国内での支援事業「東京プロジェクト」を開始
2011年4月	東日本大震災の発生を受けて、支援活動を開始。被災者の心のケアを目的とした「ニココロPROJECT」を開始。
2012年2月	福島県相双地区における精神医療システムの改良と普及を支援する「福島そうそうプロジェクト」を開始。 X線CT装置の設置を支援する「岩手県医療システム復旧プロジェクト」を開始
2012年6月	キャスターの滝川クリステルさんが親善大使に就任
2012年7月	ACジャパン（旧・公共広告機構）による2年間の支援キャンペーンが開始される。



# 日本における世界の医療団



世界の医療団

1995年の阪神淡路大震災発生時に、フランスからの緊急医療支援チームが派遣されたことを契機に、世界の医療団日本は発足しました。NPO法発足後、2000年にNPOとして登録、2008年には「認定NPO法人」として認定され、寄付に対し税制上の優遇措置を受けることができる数少ない団体の一つとなりました。

1995年の発足移行、様々なミッションに日本から医療ボランティアが参加しています。優れた医療技術と世界貢献への高いモチベーションを備えた日本の医療スタッフは、国際的にも高く評価されています。

更に近年では日本国内での活動の幅も広がっています。2008/09および2009/10の2回の年末年始に行われた専門家による調査によると、ホームレス状態の人々の約6割が何らかの精神症状(知的障害、うつ病、統合失調症等。また、それに伴う自殺の高可能性や未遂の事例)を抱えていることが判明しました。

しかしながら、行政による政策が就労自立支援を主にしており、こうした対策にそぐわず路上で孤立を深める人々が年々増えていました。世界の医療団は2010年に「東京プロジェクト」を開始。東京・池袋を拠点としてホームレス状態の人々の精神と生活向上支援を行っています。



[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)

# 日本における世界の医療団



世界の医療団

また、東日本大震災の発生に伴い、被災地への支援活動を開始しました。被災地の人々の心のケアを目的とした「ニココロPROJECT」(岩手県大槌町)では、亜急性期の避難所への訪問にはじまり、刻々と変わる現地のニーズに応じて柔軟に体制を変化させながら現在に至るまで長期的な活動を継続しています。

被災地では、2012年に新たに2つのプロジェクトを開始しました。福島県相双地区における精神改良普及のための「福島そうそうプロジェクト」では医療スタッフの派遣や医療機器及び車両等機材の提供など複合的な支援を展開しています。X線CT装置の設置を支援する「岩手県医療システム復旧プロジェクト」においては国内で初の試みとなるハード面支援・医療設備建設(CT室の提供)に取り組みます。



[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)

世界の医療団(特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャパン)  
〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F TEL:03-3585-6436 FAX:03-3560-8073

# 予算・スタッフ



世界の医療団

## 年間予算

【2011年度】: およそ137,078,043円・年間予定

(内訳: 個人寄付 61%、企業・財団 38%、会費・収益事業・他1%)

## 海外派遣ボランティア

30人(年間平均)

国内登録ボランティア: 約193人

## 常勤有償スタッフ

9人

## 理事会員: 11人 (五十音順)

磯村 尚徳 外交評論家、オスタン・ガエル(理事長) PMC株式会社代表取締役

● 大浦 紀彦 形成外科医、木内 昭胤 元駐仏日本大使

● ダヴィッド・パトリック 麻酔科医、寺島 左和子 形成外科医

● 原田 昌子 看護師、フサディエ・フランソワ 形成外科医

● ブルデ・アルノ 麻酔科医、山田 信幸 形成外科医

● 與座 聰 形成外科医

# 世界の医療団の活動パートナー



世界の医療団

世界の医療団を支えるパートナー企業

企業の社会的責任活動(CSR)の一環として、様々な業種の企業からサポートを受けています。

アクサ ジャパン ホールディング株式会社

株式会社アサツーディ・ケイ

アサヒプリテック株式会社

アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.

いちよし証券株式会社

エキスパートグループホールディングス株式会社

クレディ・アグコル銀行

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

総合警備保障株式会社

日本医療福祉生活協同組合連合会

株式会社フェリシモ

ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所

株式会社三井住友銀行

等

[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)



# メディアキャンペーンと親善大使就任



世界の医療団

2012年6月、ACジャパンのご支援によるACジャパン支援キャンペーンの開始と、滝川クリステルさんの親善大使への就任が発表されました。滝川さんは、これまでも世界の医療団の支援活動において司会を務めていたなど、一人の個人としてご協力頂いて参りました。

ACジャパン支援キャンペーンにおきましては、テレビCMとラジオCMでナレーション(語り)として収録にご協力頂いた他、今後は活動現場への視察や同行取材なども含め、国内のひとりでも多くの方々に世界の医療団の活動への関心が高まっていくよう、ご協力をお願いして参ります。



「世界の医療団チャリティーイベントを通して、そこで働いている方々と何度かお話をしたり、皆さんの表情を見させて頂く中で、自然と私の中でも世界の医療団の活動が身近に感じられるようになっていました。いつまでもサポートをしていきたいと思っている中でこのような形で改めて機会を頂き、大変光榮に思っております。さらに、皆さんの一員として、より多くの人に知ってもらえるよう、誠心誠意、一緒に向き合っていきたいと思っております。」

滝川クリステルさん／プロフィール

生年月日：1977年10月1日

出身地：フランス

学歴：青山学院大学文学部仏文学科卒

経歴：2000年4月 共同テレビジョン所属

フランス広報大使(2008年度)

2009年2月 環境省・地球いきもの応援団

一般社団法人日本動物虐待防止協会 名誉会員

2011年4月 WWF(世界自然保護基金)ジャパン 顧問

[www.mdm.or.jp](http://www.mdm.or.jp)

世界の医療団(特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャパン)  
〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10麻布善波ビル2F TEL:03-3585-6436 FAX:03-3560-8073

証言活動の充実のため、シンポジウムの開催や大規模イベントへのブース出店など、さまざまな形での対外活動を行っています。

## ブース出店

アースガーデン冬・夏・秋、アースデイ東京、愛フェス、アースデイ愛知、エコライフフェア、よこはま国際フェスタ、グローバルフェスタ、三鷹国際交流フェスティバル、アフリカンフェスタ

## ブース出店

神奈川県立白山高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高校、明治学院大学、国際基督教大学(ICU)、東京司法書士会、上智大学、東京学芸大学、神奈川県横浜市南区役所、

シンポジウム「国際理解～国際協力って何？私たちができること～」

東京都立三田高校 他

## チャリティイベント

ジェーン・バーキン 震災復興支援コンサート“Together for Japan”、支援者の集い、“Fran Goteborg till Japan” - Charity Art Performance -

# キャンペーン



世界の医療団

“1000人のスマイル作戦キャンペーン”

2011年に開始しました「1000人のスマイル作戦キャンペーン」は、これから形成外科手術「スマイル作戦」を受ける医療現場の子どもたちやその家族に、日本から笑顔の写真と励ましのメッセージを贈ることで、笑顔を交換しようというキャンペーンです。2011年は、計26の施設・イベントにご協力いただき、延べ35回開催することができました。2012年も継続中です。





# 参加ボランティアの声



世界の医療団

## 【医療ボランティアの声】 形成外科医 森岡大地

昨年、私たちは未曾有の大災害を経験しました。世界の医療団より要請を受けた私は岩手県に赴き、精神科医らと「こころのケアチーム」を組んで医療コーディネーターとして3か月間避難所を巡りました。被災地では家族を亡くしたり、職を失ったりしたために「こころのケア」が必要な方が沢山いらっしゃる一方、過酷な生活環境にもかかわらず冷静で礼儀正しく、我慢強くお互いを思いやり、助け合う多くの方がいらっしゃることに敬服の念を感じずにはいませんでした。



毎年行っていたカンボジアの「スマイル作戦」も昨年は震災のために中止せざるを得ませんでしたが、今年1月にカンボジアでの最後となるスマイル作戦を実施しました。「最後」というのは、「卒業」という意味です。今まで初日から長蛇の列を作っていた患者数は激減していました。聞くと、外国からの助けを借りずに自分たちでできることが増えた、病院幹部の若返りで職員のモチベーションが上がったとのこと。毎年赴き、現地医師や病院スタッフと共に働くことが彼らのスキルの向上に役立っていると実感した瞬間でした。自立可能なことを確認し、「最後のミッション」を終えられたことは私たちにとって、何事にも代え難い喜びであり、胸を張って支援者の皆様にご報告できます。

## 【医療ボランティアの声】 看護師 石原 恵

2010年はカンボジアとバングラデシュで実施されたスマイル作戦に延べ3回看護師として参加しました。スマイル作戦では、先天的あるいは後天的に奇形を負ってしまったにも関わらず手術の機会に恵まれなかった人々へ形成外科手術を施します。11月に行われたバングラデシュの首都ダッカでのミッションにおいては199名の患者が診察に訪れ、5日間で55件の手術をすることが出来ました。限られた時間の中で出来るだけ多くの手術ができるようチーム一丸となって早朝から深夜まで活動しますが、待機する患者は後を絶つことなく増え続けています。世界の医療団に手術をして欲しいという期待を胸に何日もかけてダッカまで来る患者も多く、そのニーズに応えるべく私たちは継続して現地へ赴きます。



カンボジアにおいては2007年より計7回のスマイル作戦が実施され、今なお現地医師と共に術後経過のフォローが続けられています。私は手術の遂行と共に現地看護師に手術室の環境整備等の助言をすることで教育に携わってきました。彼らから若い看護師や学生へ繋げることができ、改善が期待されます。

また、術後数ヶ月経っても私たちに会いに来てくれる患者は活動の励みです。マスクやショールで顔を隠すことがなくなった、学校に行っている、結婚した...彼らのドラマを感じます。患者の笑顔を取り戻すことができたのは、現地に赴くボランティアだけでなく国内外から支援して下さる皆様一人ひとりの力があるからこそなのです!

## 医療 ボランティアの 声

### 看護師 松岡寛子

◎2008年9月～2009年1月 エチオピア  
◎2008年3月～2009年9月 スーダン



2009年3月からスーダンの南ダルフルの山岳地帯ジュベルマラに看護師として派遣されました。医療アクセスはもちろん、水道、ガス、電気すら整備されていないその地で、プライマリヘルスケアと母子保健を中心とした活動に従事しました。流行性髄膜炎が猛威を振っていた時期に現地入りした私の活動は、大規模な予防接種キャンペーンから始まりました。記憶もないほど必死で活動を続けた結果、約3万人の子どもたちにワクチンを接種することが出来ました。

派遣前の目標は、一人でも多くの現地の人に、一つでも多くの知識や技術を伝えることでした。そして出来るならば、学ぶことの楽しさ、そして学んだ知識や技術を活かすことが患者の苦痛を取り除く結果へつながって行く喜びを実感してもらうことでした。その目標は少し叶ったと自負しています。

私は、世界の医療団の一員として派遣され、現地の方々から感謝されました。その思いを私の中で止めておくのではなく、今ここで皆様と分かち合うことができれば幸いです。何故なら、活動は全て皆さまお一人ひとりに支えられているからです。彼らの言葉をお伝えします。「家族を助けてくれてありがとう」